

4歳児 I期（4月～5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、保育者とのかかわりを基盤に、自分の思いを表しながら遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達や保育者と自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や周囲の子供の動きに興味をもちやってみようとする。 ・自分から新しい環境にかかわり、気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が安定できる場や遊具で遊ぶことを楽しむ。 ・気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 ・保育者や仲のよい友達と挨拶をする。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な言葉があることに気付き、使ってみる。 ・自分の思ったことを言葉で表す。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、自分と同じような動きに関心をもったりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。 ・クラスのみんなどと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみんなどいることを楽しいと感じ、安心して過ごす。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ・困ったときなどに自分から保育者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に親しみをもち、安心してかかわれる存在であることを感じる。 ・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に必要なきまりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達とのかかわりに必要な言葉があることを知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスでの生活の仕方を知る。 ・危険な物や場所を知り、安全に気を付ける。 ・できることは自分なりにやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での過ごし方を知る。 ・危険な物や場所を知る。 ・できることは自分なりにやってみる。 ・園での食事の仕方を知り、楽しく食べる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳時に経験した遊びで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・友達や保育者の動きを見て、同じように体を動かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする。 ・戸外に出て歩いたり走ったりしながら体を動かして遊ぶことを楽しいと感じる。

指導例

- ◇ **面白そうだな、やってみたいな**
それぞれがやりたいことを見つけて安心して遊ぶ。

ダンゴムシ見つけた

容易に見付けたり捕まえたりできるダンゴムシは、虫に初めて出会う子供でも親しみやすい。時には世話をすることなどを通して、命の大切さに気付くきっかけにする。

<援助のポイント>

- ・進級児はできるだけ自分で行動できるような分かりやすい環境を構成し、進級した喜びが味わえるようにする。新入児は、みんなで一緒に生活することを楽しめるようにする。
- ・それぞれの子供のペースを大切にして、新しい環境に慣れていくようにする。
- ・新しい保育者や友達に親しみを感じられるような言葉を掛け、安心して過ごせるようにする。
- ・友達と同じ場で過ごしたりかかわりをもったりできるように、遊びの場を設定したり遊具の数を十分に用意したりする。

<家庭との連携>

- ・進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子供を支えていけるようにする。
- ・4歳児は友達とのかかわりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに努める。
- ・園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。

環境の構成

- ◆ 保育室での過ごし方に慣れてきたので、戸外で安定して遊ぶことのできる機会をつくる。戸外でもそれぞれが自分のやりたい遊びを見付け、落ち着いて遊べるようにする。
- ◆ 春の自然を生かし、花びらや葉を使って遊べる場所をつくる。自由に使ってよい草花が分かるように表示をする。近くにカップや机を出し、遊ぶ場が安定するように設定する。
- ◆ 紙テープ、チョウの形に切った紙、セロハンテープ、輪ゴムなどを用意し、簡単に作れて、作ったものを持って遊べるようにする。材料などは一人一人が十分に遊べる数や量を準備する。
- ◆ 子供が自分で持ち出したり片付けたりしやすくなるように、遊具や用具の置き場所に写真や絵で分かりやすい表示を付ける。

子供の姿

進級児：3歳児の時にも使っていたビールケースや砂場の道具を使って、遊び始める。砂場でごちそうを作り、自由に使える葉を取ってきて飾る。同じ場にいる新入児に「この葉っぱや花びらは使っているんだよ」と教える姿も見られる。保育者に「先生、見て」と自分の作ったものを見せ、「おいしそう」「葉っぱで飾ってきれいだね」などと受け入れてもらいながらかかわることを喜ぶ。

3歳児の頃からの気の合う友達と紙で作った棒を持って一緒に動いたり、スカートをはき、シートを敷いてピクニックごっこをしたりするなど、同じような物を持ったり身に付けたりで遊ぶ。

紙テープの先にチョウの形の紙を自分で貼り、風にそよがせたり、持って走ったりして「見て、チョウチョが飛んでいる」と喜ぶ。

新入児：「おうちがいい」と泣いたり緊張感を見せたりする子供もいる。保育者と手をつないだり抱かれたりしながら戸外に出る。春の暖かさや心地よさに表情が和む。保育者が「あっ、アリさんがいる」と言うと、関心をもって見る。徐々に地面に下り、動くアリを見ているうちに気持ちも安定する。数人の子供が同じ場でアリを見たり、捕まえようとしたりする。

テラスにいるウサギに、キャベツを食べさせることを楽しんでいる。保育者に「キャベツちょうだい」と要求し、ウサギが食べると「わあ、食べた」と近くにいる子供と一緒に喜ぶ。

落ちていた花びらを拾って、保育者に見せる。「きれいね。たくさん集まりそうね」とカップを渡すと、園庭のあちこちで花びらを集め、保育者に見せに来る。カップがほしくて、「これ、わたしの」と取ろうとするなど友達に一方的にかかわる場面もある。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★自分の気に入った場所や遊びを見付け、楽しむ。

★遊びに必要な言葉を知り、使う。

★暖かさや心地よさ、花びらや虫など、身近な春の自然に親しむ。



●気の合う友達を見付け、同じ遊びを楽しむ。

●同じ場にいる友達に関心をもったり、かかわったりする。

▲遊びながら遊具や物の置き場や使い方などを知り、新しい環境に慣れる。

●保育者とかかわり、安心感や親しみをもつ。

援助のポイント

- ◆ **一人一人が安定できるような保育者の存在を意識する**
担任との信頼関係を基盤に、進級児も新入児も安定して自分らしく動けるように、保育者はスキンシップやにこやかな表情を心掛け、一人一人を受け入れる言葉を掛けるようにする。
- ◆ **進級児と新入児の経験に応じた援助をする**
集団生活や園での遊びに慣れている進級児と、集団生活を初めて経験する新入児が共に生活するので、それぞれに合った遊びを楽しめるようにする。進級児は気の合う友達と一緒に動いたりかかわったりするきっかけとなるように広告紙の棒、スカート、園庭の遊具などを準備する。新入児は、個々が安心できる遊具や場を見付けて遊ぶことができるよう、落ち着いた場を保育者が用意したり、遊び相手となったりしていく。
また、遊びの場面を捉えて、友達とのかかわりに必要な「入れて」「貸して」「いいよ」などの言葉を保育者が一緒に使いながら、友達とのかかわり方を知らせる。

4 歳児 II 期（6 月～9 月上旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 ・気の合う友達と互いの思いを出して遊ぶことを楽しむ。 ・クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物に興味をもって、生長を楽しみにしたり収穫することを喜んだりする。 ・砂や泥、水などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞保育者の仲立ちによって、思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。 ・自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。 ・絵本の読み聞かせを楽しんで聞く。 ・歌や絵本、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞身近な素材を使って作ることや、作ったものを使って遊ぶことの楽しさを感じる。 ・身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。 ・新しい素材や材料に興味をもってかかわり、必要なものを使ったり作ったりして遊ぶ。
人のかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞思い通りにならないことがあるときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。 ・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 ・友達の言葉や動きに気付き、自分なりに応じていく。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 ・集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 ・ルールを守ると楽しく遊べるということが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞園生活の流れが分かり、自分から動く。 ・天候に合った生活の仕方を知り、自分で行おうとする。 ・＜新＞園外に出たときの行動の仕方を知る。 ・夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられたうれしさを感じる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・プール遊びを通して、水の中での動きを楽しみ、開放感を味わう。

※＜新＞は、新入児に特に配慮する内容を表す

＜指導例＞

◇ フルーツバスケットは楽しいな

みんなで唱和したり一緒に動いたりする楽しさを感じる。

作るのって楽しいね

細かい色紙をはさみで切ってカップに入れる（ジュース）、丸い台紙にのりで貼る（ピザ）など、子供にとって身近なイメージを取り入れた製作活動を通して、のりやはさみの使い方を知らせる。

＜援助のポイント＞

- ・友達とのつながりができてくるので、思いを表したり伝えたりすることを楽しめるように、いろいろな友達の姿を伝えたり、思いが伝わり合うように言葉を補ったりしていく。
- ・いろいろな素材や用具に触れられる機会を設け、扱い方を知ったり遊びに取り入れたりしていく楽しさを味わえるようにする。
- ・プール遊びの約束、着替えや水着の始末の仕方などを分かりやすいように工夫して伝え、プール遊びに期待をもち、楽しく取り組めるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・遊びや友達同士のかかわり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手へのかかわり方に気付いていけるように保育者が援助していることをクラスだよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携を図る。
- ・大人が先に指示をしたりせず、子供が自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていくことが自信や意欲につながっていくことを知らせる。

環境の構成

◆ 2～3種類の果物に分ける

順番を待つ時間が長くないよう、果物の種類は2～3種類にする。果物の絵の描いてあるペンダントを首から掛けると自分でも見えて分かりやすい。慣れてきたら果物の色の帽子でもよい。

◆ 円形に椅子を並べる

クラス全員で唱和したり、合図に合わせて動いたりする楽しさを味わえるように、子供が座る椅子を中央向きで円形に並べる。移動するときに衝突しないように、隣との間隔にゆとりをもつ。

◆ 基本のルール

果物の絵の描いてあるペンダントを首に掛けて座る。手拍子と共に「フルーツバスケット」と全員で唱和した後にコールされた果物のペンダントを掛けている子供が立ち、空いている席へ移動する。

子供の姿

最初は保育者が果物をコールする。子供たちは自分が呼ばれるのを楽しみにするが、中には呼ばれていなくても移動して「しちゃん違うよ」と友達に言われる子供や、コールに気付かない子供もいる。好きな友達の隣に座ろうとして「ここがいい」と席の取り合いになる子供もいる。

次第に「フルーツバスケット」と唱和する声そろって、遊びにリズムが出てくる。慣れてきた頃に、全員が席を移動する「みんな」のコールを取り入れると全員で一緒に動くことを喜び、声を上げながら移動する。

何回か経験してルールに慣れた後、椅子を一つ減らし、座れなかった子供が次のコールをするというルールに変える。中央でコールするときに戸惑う子供もいるが、保育者に助けられながら言うことができ笑顔になる。次第にコールをしたくて、座ろうとしなかったり友達に席を譲ろうとしたりする子供が増えてくる。他の子供からは「早く」と声上がる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★●ゲームのルールが分かり、ルールに沿って遊ぶ。

★●他の人の合図に合わせて動いたり、自分が合図を出したりする面白さを感じる。

●クラスみんなで一緒に動いたり唱和したりするのを楽しんでいる。



★みんなでリズムのある言葉を唱和することを楽しむ。

●一緒に活動をする中で、クラスの友達に親しみをもつ。

援助のポイント

◆ 唱和する楽しさが感じられるような言葉や合図の工夫をする

コールに注目しやすく、唱和する楽しさが感じられるように静と動のメリハリのある流れをつくる。例えば、みんなで手拍子をするとともに「お引越し」と唱和した後に次の果物の名前をコールすると、コールするタイミングがとりやすく、聞く側も集中しやすい。

◆ みんなで遊ぶ楽しさを通して、クラスの友達への親しみをもてるようにする

集合時にはいつも好きな友達の隣に座りたい子供もいるが、ゲームの中でいろいろな友達の隣になったり、みんなで一緒に動いたりする楽しさを体験することで、クラスの友達への親しみをもてるようにする。

◆ 幼児の動きに応じたルールを取り入れて、テンポよく遊びを進める

ゲームの理解の様子や子供の動きに応じて、ルールを変えていく。遊びが長く中断すると楽しさが続きにくいので、ゲームがリズムよく進むようなルールを取り入れる。座ろうとしない、動こうとしないなどの姿には、コールしたい気持ちや座れない不安を受け止め、うまくいったときに好機を逃さずに認めたり保育者が一緒に行動したりしながら、楽しさを感じて自分から動けるようにする。

4 歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事にかかわり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 友達とのかかわりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の変化に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりして楽しむ。 繰り返し遊ぶ中で自分なりのやり方を試したり工夫したりする。 身の回りの物に触れたり使ったりして遊ぶ中で、物の性質（重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど）に気付く。 運動会などの行事を通して、様々な国などの旗があることを知り、関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや友達とのかかわりの中で、自分の思いを動きや言葉で表していく。 保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、会話を楽しんだりしながらつながりを感じる。 気に入った絵本を保育者に読んでもらったり、自分で見たりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に伸び伸びと体を動かして踊ったり、自分なりの表現を楽しんだりする。 遊びや行事の中で、身に付ける物や使う物を作り、それを使って遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達とのかかわりを楽しむ。 クラスのみなどと一緒にルールのある遊びをして、遊ぶ楽しさを味わう。 友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。（かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など） 行事を通して様々な人（職員、他の保護者、地域の方など）とのかかわり、親しみをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 集団遊びやゲームを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 約束やルールを守ることでみんなが気持ちよく過ごせることを感じる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの物の始末や、使った物の片付けを自分でしようとする。 生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。 安全に過ごすための約束やきまりが分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 用具や遊具の使い方に慣れ、組み合わせて場をつくって遊ぶ。

<指導例>

◇ 年長さん、教えて

年長児と一緒に運動遊びを楽しみ、憧れや親しみをもつ。

ぼくはこっちがいいのに…

友達との遊びの中で自分の思いを出す、相手が違う思いだと受け入れてもらえないこともある。保育者が仲介となり、双方が思いを言葉で表し相手の思いを聞くことで解決に向かえるように援助する。

<援助のポイント>

- 子供同士で思いがぶつかる時は、保育者が双方の思いをくみ取りながら相手の思いに気付けるように仲介していく。その後の手立てを一緒に考え、心を落ち着けたり気持ちを切り替えたりして遊べるようにする。
- 遊びの中で、いろいろな動きを試せるような用具を使ったり、子供が興味をもっているイメージを取り入れたりして、自然に体を動かして遊ぶ気持ちが高まっていくようにする。

<家庭との連携>

- 日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子供の姿に生きることを、懇談会やクラスだよりなどで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。
- 運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。

環境の構成

- ◆ 運動会の余韻を楽しめるように、運動会で5歳児が使っていた物（リズムダンスの音楽テープ、衣装、リレーのバトンなど）を準備する。貸し借りのやり取りが生まれるように、できるだけ5歳児のクラスに置く。必要な物は、見えやすい場所に置いておく。
- ◆ いくつかの遊びが展開したときには、安全に遊べるように場の調整をする。

子供の姿

運動会の後、戸外へ出て「ヨーイ、ドン」とかけっこや追いかかけっこなど友達と走り回ることを楽しんでいる。保育者が「年長さんがしていたリレーをしようか」と提案すると子供たちは「やりたい」と張り切って答える。保育者が「年長さんからバトンを借りてこようか」と促すと、「バトン貸してください」と年長組に借りに行く。5歳児担任との「リレーのやり方は分かるかな」というやり取りを見ていた5歳児が「教えてあげようか」と、遊びに加わる。4歳児担任は「教えてくれるの。ありがとう」と応じる。5歳児は「最初はチームを決めるんだよ」「赤チームになりたい人」と4歳児をリードしながら進める。人数調整などは保育者も助言し、5歳児が出してきた三角コーンの位置を保育者が調節して折り返しリレーが始まる。4歳児も同じチームの友達を「頑張れ」と応援しながら、繰り返し走ることを楽しむ。

数名で音楽を鳴らしながら踊りを楽しんでいると、運動会で5歳児が踊ったリズムの曲を見付け、「これ、年長さんの体操だ」と自分たちで音楽をかけて踊り始める。

途中、振り付けが分からなくなる部分があり、保育者が「あれ、どうだったかな。年長さんに聞いてみようか」と提案する。4歳児が「年長さん、体操教えて」と5歳児の保育室へ頼みに行くと、何人かの5歳児が「いいよ」と快く教えに来て、一緒に踊りが始まる。4歳児も5歳児の振り付けをまねながら嬉しそうに繰り返し踊る。途中、5歳児が「そうだ、これも使う」と自分たちの使っていた衣装を持って来て4歳児に着せる。4歳児は衣装を着たことで一層張り切って踊り、保育者は「かっこいいね。年長さんみたいだね」と言いながら見守る。

翌日は、自分たちで衣装を借りに行き、踊りを楽しんでいたのも、集合時にクラスのみんなで踊る機会をもつ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で表す。

★▲友達と一緒に年長児のまねをして動いたり踊ったりすることを楽しむ。

●▲友達と戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。



●年長児への憧れや親しみをもつ。

●▲年長児にルールを教えられながら運動遊びを楽しむ。

▲いろいろな運動遊びに関心をもち、すすんで取り組む。

援助のポイント

- ◆ **4歳児、5歳児の子供にとって有効なかかわりになるように、保育者間の連携を図る**
それぞれの子供に経験させたいこと、予想される子供の動き、保育者の援助の仕方、5歳児が対応できる時間などを園内で共通に確認しておく。
- ◆ **4歳児のモデルとして年長児にかかわる**
教えてくれた5歳児にお礼を言ったり、5歳児の動きや教え方を認めたりすることで、4歳児の5歳児への憧れや親しみの気持ちを高めるようにする。また、5歳児だけでは遊びの進行がうまくいかない場面では、4歳児の順番が回ってこないことで意欲を失わないように、保育者がかかわり方や遊びの進行を調整する。
- ◆ **遊びの中で楽しんでいたことをクラスの活動に取り入れる**
遊びの中だけでは経験していない子供もいる。クラスの活動に取り入れてみんなでリレーをしたり、5歳児に教えてもらったリズムダンスを部分的に踊ったりする機会をつくることで、楽しさや5歳児への憧れを共有できるようにする。

4歳児 IV期（11月～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。 	
学 び の 芽 生 え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 季節による自然の変化に気付き、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達との会話を楽しむ。 絵本やお話などを喜んで見たり聞いたりして、イメージを広げる。 絵本や歌の中にある面白い言葉に気付き、喜んだり繰り返したりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 お話の中の人や動物などになりきって遊ぶ。 自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。 思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。
人 と の か か わ り	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 友達の動きに関心を持ち、その動きに合わせてたり応じたりして動く楽しさを感じる。 簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きがかかわり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 友達と生活する中できまりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。 共同の遊具や用具を大切に、貸し借りをして使ったり一緒に片付けたりする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがいの大切さが分かり、自分からすすんで行く。 自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、すすんで取り組む。 必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に、鬼遊びやしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。 いろいろな遊具や用具を使って、様々な動きを組み合わせる遊び。

<指導例>

◇ いいものができた

様々な素材を使いながら、作る楽しさを味わう。

◇ てぶくろごっこをしよう

好きな遊びの中で簡単な表現遊びを楽しんだり、クラスみんなで誕生会やお楽しみ会で発表する楽しさを感じたりする。

いい音がしたね

クラスみんなで知っている歌に合わせて楽器遊びをする。自分なりに自由に鳴らしてみたり、簡単な分担奏で友達と音を合わせたりする。

<援助のポイント>

- 友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなってくるので、友達とのかかわりの中で、相手の気持ちに気付くように、個々の思いを保育者が受け止めながら、言葉で相手に伝えていく。
- 遊びの中で「こうしたい」という子供の思いを受け止め、イメージや目的に合うような素材や材料を一緒に見付けたり提示したりするなど保育者が積極的に支え、自分たちで遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。子供が思い付いたことを自分で実現できたと思えるような援助の工夫をする。

<家庭との連携>

- 個人面談を設定し、日常生活での子供の取組や友達とのかかわりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。

環境の構成

- ◆ 動物園に遠足に行ったことをきっかけに、製作コーナーの空き箱を充実させ、作る楽しさを経験する機会を設定する。作ったものは見合えるように、置き場所を工夫する。
- ◆ 扱いやすい大きさの空き箱、空き容器など土台になる素材、土台に付けて更に作る楽しさを引き出す素材を十分に用意し、取りやすく分類しておく。
(空き箱、空き容器、ペーパーの芯、キャップ、毛糸、色紙など)
- ◆ セロハンテープ、ボンド、絵の具(空き容器にも着色しやすいもの)など接着や彩色できる用具を、間隔をゆったりととって置き、使いやすくする。

子供の姿

「何に見えるかな」

保育者が黙って空き箱を組み合わせて遊んでいる。「何を作ってるの」「キリンみたい」という子供の言葉を受け、セロハンテープで接着し、動かしてみる。「わあ、作りたい」「何にしようかな」と、思い思いに空き箱を持ってきて組み合わせる。作りたいものをイメージしてからそれに合う素材を取りに行く子供や、まず好きな箱を持って来て、扱いながら作るものが決まっていって子供もいる。

「長い耳にしたいな」

箱を組み合わせただけの動物で遊ぶうちに「長い耳にしたいな」「しっぽもあったらいい」と、作り足したいものに気付く。保育者が「こんなのはどうかな」と紙や毛糸などを付けてみる。「フワフワしていて、それがいい」「違うのがいい」など、素材置き場に行き、自分のイメージに合ったものを持って来る。ボンドや絵の具の扱いは、作りながら個別に確認したり、手助けをしたりする。

「作ってみようか」

自分たちの遊びに使いたい物を作る子供もいる。素材を自由に扱う姿を認めていく。遊びの合間に保育者が「仲よしだから、仲よし動物園を作ってみようか」と声を掛ける。「強いのにしよう」「カバにする」などと、自分が強いと思う動物を作り始める。カバを作っている子供は「本当に口が開くようにしたい」と言い、保育者の援助を受けて、空き箱を切って口が開くようにし、喜ぶ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★空き箱を組み合わせて見立てたり、必要なものを選んだりする。

★様々な素材を扱いながら、感触や色、形に気付いたり、取り入れたりする。

★自分なりに工夫する楽しさを感じる。



●保育者や友達がしていることや言っていることに興味をもち、遊びに取り入れてみる。

●作った物を友達と一緒に動かして遊ぶ。

★素材に合った接着方法や用具などの扱い方を知り、使ってみる。

援助のポイント

- ◆ **素材を扱いながら思い付き、思い付いたことを自分なりに形にする楽しさを味わえるようにする**
様々な素材を取りやすく分類しておき「素材を自由に扱って作りながらイメージがわき、さらに考えたことを付け足していく」という作る楽しさを十分に味わえるようにする。その子なりのイメージを受け止めて保育者も積極的にアイデアを出し、思い付いたことが形になるように援助する。土台がしっかりしていることで繰り返し遊んだり工夫を加えたりすることができる。「ぐらぐらしないとかっこいいね」など、子供自身が気付けるように声を掛けながら手助けをし、しっかりとした物を作る経験につなげる。
- ◆ **経験の幅を広げていけるようにする**
動物園に遠足に行き楽しかった経験があること、動物は空き箱で見立てやすく作りやすいことを生かし、全員が経験できるように設定している。一斉で行うのではなく、保育者を中心として楽しんで作る雰囲気の中で、その子供の遊びや興味、関心に合わせて進めていく。今までに作ったことのないものを作れた、よいものができたという満足感を味わえるようにする。
また、一人一人の素材への向き合い方、用具の使い方を確認し、個別に援助しながら自分でできることを増やしていく。

好きな遊びの中で簡単な表現遊びを楽しんだり、クラスみんなで誕生会やお楽しみ会で発表する楽しさを感じたりする

環境の構成

- ◆ 繰り返しの楽しさや身近な動物が出てくるお話など、子供が表現したくなるような絵本に日常的に親しみ、身近な場所に絵本を置いておく。
- ◆ 動物のお面、しっぽ、マント、ペープサートなどを子供たちが自分で扱えるように準備する。パネルやフックを使ってお面、耳、しっぽ、マントを掛けるなど、子供たちが見て分かりやすく扱いやすい置き方を工夫する。

子供の姿

- ・ 2～3人の友達と一緒に、自分の好きな動物のお面やしっぽを身に付けて遊ぶ。積木で動物の家を作り、ままごとの食べ物を運んで、動物のおうちごっこをする。「～にゃん」「～わん」と語尾を動物の鳴き声にして会話をし、動物になりきって楽しむ。



◆ クラスみんなで表現遊びをする機会をつくる

- ・ 動物の表現遊びをする。
ピアノの音に合わせて動物になってそれらしく動いたり、お話に合わせて簡単なお話ごっこをしたりする。
(例)「てぶくろ」「おおかみと七匹のこやぎ」など、掛け合いや繰り返しのある内容のもの

- ・ クラスみんなで表現遊びをした翌日、数人の子供が「てぶくろ」のお話に出てくる動物のお面やしっぽを選んで身に付ける。「私はねずみになるね」「じゃあ、私はうさぎね」と、自分がやりたい役になり、「てぶくろ」のお話ごっこをする。友達がやっているのを見て「入れて」と仲間に加わる子供や、「いのししがいないね。誰かいのししやりたい人はいませんか」と、友達を誘う姿が見られる。
クラスみんなで表現遊びを行った経験があるので、仲間に加わりやすく、5～6人の友達が集まって「てぶくろごっこ」を楽しむ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

- ★●友達と一緒に、イメージを出し合いながら遊びの場をつくったり、必要な物を用意したりして遊ぶ。
- ★▲積木の特性や安全な扱い方が分かり、必要な物を選んで使う。
- ★●遊びの中で自分なりのイメージを出し、なりきって遊んだり、友達の言葉に受け答えをしたりする。

- ★●クラスの友達と一緒に、ストーリーに合わせて動くことや、言葉の繰り返しの面白さを感じる。
- ★●クラス全体で楽しんだことを思い出し、5～6人の友達と一緒に遊びの中で再現して楽しむ。
- ★●友達と一緒に、お話のストーリーに合わせて遊びの場をつくったり、必要な物を用意したりして遊ぶ。
- 友達のしていることに関心をもったり、いつも遊んでいる友達以外ともかかわりをもったりする。

◆ 誕生会を活用し、表現遊びを発表する機会をつくる

- ・誕生会で「てぶくろ」の劇遊びを発表する。
遊びの中で特に楽しんでいたお話を、誕生会の出し物で発表する。
- ・異年齢の友達や保育者に見てもらふことで、発表する楽しさや見てもらふうれしさを感じたり、見ている人に分かるように話す工夫を考えたりする経験にする。



- ・好きな遊びの中で、巧技台や積木で舞台や座席を作り、発表会ごっこをする。

「てぶくろのチケットです。見に来てください」

「先生、見に来ますか」と友達や保育者をお客さんに誘ったり、他学年の友達を呼んだりして、「てぶくろ」の劇遊びを見せる。

- ★●クラスの友達の中でなりきって表現遊びを楽しんだり、見てもらふうれしさや、みんなでできた喜びを感じたりする。

- ★●クラス全体で楽しんだ経験を生かし、友達と一緒に役になりきって表現することを楽しむ。

援助のポイント

◆ 自分なりに表現する楽しさが感じられるようにする

好きな遊びの中で表現遊びを楽しむことで、自分なりになりきって動く楽しさを感じさせていく。また、クラスみんなで動くときには、一人一人が表現している姿を認めていくことで、自信をもって伸び伸びと表現できるようにする。

◆ 仲のよい友達の中で、互いの思いや考えを言葉や動きで表せるようにする

Ⅲ～Ⅳ期にかけて、友達とのトラブルを様々な経験しながら、相手の思いに気付き、気持ちや考えを受け止め合える友達関係ができてくる。このことを生かし、数人の仲のよい友達との遊びの中で、互いに思いや考えを言葉や動きで出し合い、受け止め合えるように、一人一人の考えのよさを認める言葉を掛けたり、必要に応じて思いを仲介したりしていく。

◆ クラスみんなで表現遊びをする中で、友達と動きや気持ちを合わせる楽しさや心地よさが感じられるようにする

好きな遊びとクラス全体の活動をつなげていくことで、表現遊びの楽しさを十分に味わわせていく。動きや気持ちが合ったときには、「気持ちがいいね」「すてきだね」と保育者が言葉や行動に表して共感することで、心地よさが実感できるようにする。

クラス全体での経験が更に好きな遊びの広がりや深まりにつながる。その過程を生かして行事などへと結び付けていくことも考えられる。活動の連続性や幼児の経験のつながりを保育者が意識して援助することが大切である。

◆ 取組の経過とそこで経験していることを家庭に伝える

一人一人の持ち味や頑張っていること、好きな遊びとクラス全体での活動のつながりやその意味など、保育の中で経験していることを、継続した活動の具体的な場面を通して伝えていく。そのことで、活動の過程を大事に受け止め、クラスの子供の成長を喜び合う雰囲気をつくっていく。

4 歳児 V 期（1 月～3 月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然事象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字などに興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話を聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、すすんで使ったり、自分から挨拶をしたりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と気持ちを合わせて歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 ・遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 (1 日入園での新入園児とのかかわり、お別れ会の計画、当番活動など) ・クラスのみんと一緒に活動する中で、満足感を感じたりクラスとしてのつながりを感じたりする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児と交流したり、当番の引き継ぎなどをしたりして、年長児の生活に期待をもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことと悪いことに自分で気づき、自分なりに考えて行動する。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは、自分でする。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・気持ちよく食事をするために、挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の食文化を知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 年長組のお別れ会をしよう

保育者やクラスの友達と一緒に活動を進める中で、自分の考えを出したり、友達と力を合わせたりする。

助け鬼をして遊ぼう

チームの友達に助けを求めたり、勇気を出してチームの友達を助けに行ったりして、助け合ううれしさを感じながらルールに沿って遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・自分でできたという自信がもてるように、個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて相談に乗ったり、方向性を示したりする。
- ・年長児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引き継ぎをしたりする機会を設け、年長児になることへの期待をもたせていく。

<家庭との連携>

- ・1 年間の子供の成長を振り返り、保護者と共に喜び合う。
- ・子供たちの進級に向けての活動の様子（お別れ会、新入園児とのかかわり、修了式への取組など）を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

保育者やクラスの友達と一緒に活動を進める中で、自分の考えを出したり、友達と力を合わせたりする

環境の構成

- ◆ 年長組の修了を祝って「お別れ会」をすることを保育者が提案し、どのようなことをしたいか、クラスみんなで考える機会をつくる。
- ◆ プレゼントは、子供自身で扱える素材や、経験を広げることができる内容の物を取り入れる。
〔紙粘土の鉛筆立て、牛乳パックの周りに染め紙を貼った鉛筆立て、スチレン版画を生かした手紙ばさみ など〕
- ◆ 日頃から親しんでいる、異年齢グループを生かした活動内容にする。
- ◆ 自分たちで作れる輪つなぎなどで会場を装飾し、お祝いや感謝の気持ちを表せるようにする。年長児の姿や表情などが見えるように座席を向かい合わせにする。

子供の姿

お別れ会に、クラスみんなでどんなことができるか、どんなことをしたいか話し合う。「プレゼントを作る」「歌を歌う」「楽器をする」「司会をする」など、前年度のお別れ会や、誕生会や生活発表会で自分たちが発表したことを思い出して、様々に発言する。

異年齢グループでお世話になった年長児にプレゼントを作る。「喜んでくれるかな」「学校で使ってくれるかな」「お別れ会が楽しみだね」と、年長児のことや当日のことを考えながらプレゼントを作る。

お別れ会当日は、3～4人の子供で司会を担当する。「ドキドキするね」と一緒に司会をする友達と話をしたり、手をつないで言葉を言ったりする。異年齢グループでお世話になった年長児にプレゼントをあげたり、みんなでお祝いの歌を歌ったりする。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★今までの行事での経験を思い出し、活動に生かそうとする。

★●保育者や友達に自分の考えたことを伝えようとする。



★●クラスの友達と同じ目的に向かって活動し、友達とのつながりを感じる。

★●みんなのできた満足感を味わい、自信をもつ。

●年長児の修了を祝い、感謝の気持ちをもつとともに、自分たちが年長児になる喜びを感じる。

援助のポイント

- ◆ 年長児になる喜びを感じられるようにする
進級に向かう時期には、自分たちのできた満足感を味わわせ、年長児になる喜びや自信をもたせていくことが大切である。会を計画する際には、あらかじめ子供たちのできる内容を保育者がいくつか予想しておく。その上でクラス全体での話し合いという形式を取りながら、保育者が子供の考えをテンポよくまとめて実現できるように方向付ける援助をし、子供が「自分たちで考えた」「自分たちのできた」という実感や自信をもてるようにしていく。
- ◆ みんなの中で自分の考えを出したり、力を合わせたりする経験を通して、クラスの一員としての気持ちを高める
話し合いや活動を通して、みんなの中で発言や行動ができたことや一人一人のよさを保育者が積極的に認めることで、自分がクラスで受け入れられていることを感じたり、友達の考えやよさに気付いたりできるようにする。